



慶應義塾大学ビジネス・スクール

MEノート (6)

“SIMPAK”について

5

これは企業の長期計画の諸問題の分析という特 なる目的のために、ハーバード・ビジネス・スクールの開発されたBASICによるシミュレーション・パッケージである。以下ではその一つの使用例として、企業買収 (Acquisition) の際の予備的分析を目的とする “ACQUIS” を取上げて、簡単にその利用の方法を説明する。(MS-DOS版についてはMEノート(4)の附録を参照のこと)

10

1. タイトルとコントロール・データ

ライン番号50は分析のタイトルを印刷する。

ライン番号75はコントロール・データで、次の様な意味を持っている。

N 1 : 使用される離散的な分布の数 (≤ 5) ; 変数名 D

15

N 2 : “ 連続的 ” (≤ 5) ; 変数名 C

N 3 : “ 正規分布 ” (≤ 5) ; 変数名 U

N 4 : 上の三つはいずれも一変数の分布であるが、ここでは特に一変数の回帰分析の結果を利用するために = 変数正規分布を使用することができる。しかしインプットがわずらわしいだけであるので、いつでも $N 4 = 0$ として、同じことを “REG” で得た予測値の平均と分散を使用して N 2 又は N 3 で処理することとする。 (≤ 5) ; 変数名 Y

20

N 5 : 乱数発生 of 初期値

N 6 : 確実な値をとる変数の数 (≤ 15) ; 変数名 A

N 7 : 確実な値をとるベクトル変数の数 (≤ 10)。 (それぞれのベクトルは10ヶまでの値をとることができる) ; 変数名 V

25

N 8 : 一回の試行でとり得る年数の最大限 (≤ 10)

N 9 : 年々の平均値を計算し、その結果を印刷したい変数の数 (≤ 15) ; 変数名 T

ライン番号 80

N 0 : シミュレーションの試行回数 (≤ 200)

30

* 勿論ディメンジョン文を書きかえれば、N 1 ~ N 0 の値は適当に変えることができる。